

教科等研究会（中学校道德部会）

令和２年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

かさねる ひろがる 深まる 道德授業のあり方
～深い学びにつながる発問の工夫～

2 研究経過

	期 日	場 所	内 容
第1回	7月10日(金)	木山中学校	○研究テーマ協議、研究計画、研究組織づくり等
第2回	11月10日(火)	矢部小学校	○小中合同授業研究会 ○研究授業 教 材 名:「にんじんばたけで」 (「生きる力」日文) 内 容 項 目: A(1) 善悪の判断、自律、 自由と責任 授 業 者: 山都町立矢部小学校 堀田星子教諭
第3回	1月29日(金)	清和中学校	○山都町立清和中学校 道德教育研究発表会 参加 ○実践報告、研究のまとめ

3 研究の概要

(1) 研究の内容

上益城郡教科等研究会全体テーマ『児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり』を受け、本部会では、道德科の時間において生徒が自分のこととして「かさねる」授業とはどのようなものかを検討した。討議の中で、これからの道德教育では、単に「かさねる」だけでは不十分で、自分自身のことと重ねた上で、考えを「ひろげ」ていき、自己の課題を発見して主体的・協働的に探求して解決する中で、学びの成果を具体的な道德的实践へとつなげていく「深まり」が求められるのではないかと、そして、生徒の思考を深めていくためには、授業における発問の工夫が重要ではないかという結論に至った。昨年度の研究も引き継ぎながら、本部会の研究テーマを「かさねる ひろがる 深まる 道德教育のあり方～深い学びにつながる発問の工夫～」に設定した。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・小・中合同の授業研究会では、「自分と重ねて考え、自分を見つめるための手立ての工夫」や「多面的・多角的に考えるための手立ての工夫」について、小・中学校相互の実践を出し合い、研究テーマに沿って協議を行うことができた。今後も、小・中で連携しながら道德教育の推進を図っていきたい。
- ・「主体的な生き方を育む道德教育～道德科の授業とすべての教育活動を通じた取組～」について研究された清和中学校の実践から、「組織的な授業づくり」や「生徒の変容を見取る評価の工夫」「家庭と連携した地域教材等の活用」など、学校の教育活動全体を通じて道德教育を行うことの重要性を実感することができた。

課題

- ・コロナ禍で研究会の実施回数が例年より減り、研究を深めることができなかった。
- ・第3回の研究会では、各校の研究の成果と課題を整理し、まとめてもらったが、内容を十分に協議する時間がとれなかった。

4 実践事例

(1) 授業の概要

山都町立清和中学校が令和元年度に文部科学省指定「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を受けられ、研究・実践を進められてきた。

研究の中で、道德の授業に対する改善・充実に図られ、特に、指導過程のさらなる工夫につ

いて、展開の時間を確保することで生徒たちに授業内容に対して深く考えさせることを目指してこられた。

今回の教材「そのこ」では、世界の現状を訴えかける写真や詩が、生々しい真実を伝えている。授業を通して、生徒一人一人が本当に自分に関係することとして捉え、国際社会の一員として自分に何ができるのかを考え、深めていく大切な機会としてほしいという思いや、自分の身の回りの出来事だけに目を向けるのではなく、広い視野を持って国際社会に対して、考え、行動できる人になってほしいという思いをもって授業を展開された。

(2) 学習構想案 (授業者 山都町立清和中学校 酒井健太郎 教諭)

1 学習構想

主題名		その子の世界, 私の世界 (内容項目 C (18) 国際理解, 国際貢献)	
ねらいと教材	(1) ねらい 写真で「その子の世界」と「私の世界」の違いを比べたり, 詩で谷川さんの思いを考えたりする活動を通して, 国際社会の問題解決について自分事として捉え, 国際貢献しようとする態度を育てる。		
	(2) 教材名 そのこ 出典:「新しい道徳3 (東京書籍)」		
評価の視点	評価の視点 1	評価の視点 2	
	世界の人々が置かれている生活の現状や課題に目を向け, 日本人と現地の人という立場から多面的・多角的に考えている。	国際貢献することを, 自分に関係のあることとして捉え, これからの自己の生き方について考えている。	
目指す生徒の姿			
国際社会の問題解決について自分事として捉え, 国際貢献しようとする生徒。			
主題に迫る学習課題		本時で働かせる見方・考え方	
同じ人間として, 「そのこ」の幸せのために, 自分にできることは何かを考える。		国際貢献について, 多面的・多角的に考え, 自己との関わりの中で捉えながら, 自己の生き方についての考えを深めていくこと。	
内容項目相互の関連的・発展的な指導, 各教科や体験活動との関連的指導			
道徳科 C (18) 国際理解, 国際貢献			
各教科等との関連	目指す生徒の姿		体験活動や道徳教育との関連
社会 私たちと国際社会の諸問題 英語 What Is the Most Important Thing to You? 技術・家庭 家族・家庭と子どもの成長	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">3年次</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; text-align: center;">「そのこ」(本時)</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">2年次</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; text-align: center;">「六千人の命のビザ」</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">1年次</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; text-align: center;">「日本から来たおばさん」</div> </div>		(関連内容: 国際理解・国際貢献) ・生徒会活動「ユニセフ募金」 ・生き方を考える全校集会 「青年海外協力隊を通して見えたもの」 ・家庭道徳の取組 「女医宇良田唯子」(熊本の心)
社会 近代の日本と世界 英語 If You Wish to See a Change			
社会 世界の様々な地域 私たちと国際社会の諸問題 技術・家庭 食生活と自立/衣生活・住生活と自立 保健体育 健康な生活と疾病の予防			

2 主題設定の理由（省略）

3 指導にあたっての留意点

研究主題 主体的な生き方を育む道徳教育 道徳科の授業とすべての教育活動を通じた取組

今年度は、研究主題を上記のように設定し、授業部会と関連部会に分かれて研究を行っている。指導にあたっては、研究の視点をもとに以下の4点に留意する。

【組織的な授業づくり】

- 授業づくりにおいて学年部や学校全体が参加して指導案検討や模擬授業を行うようにする。
- 授業においては T1～T3 で役割分担をする。

【指導過程の工夫】

- 指導過程を導入、展開前段、展開後段、終末の4つに分けて授業を構想する。本時では、それぞれの指導過程で次のような工夫をする。
 - 〔導入〕 展開前段で世界の子どもの違いを際立たせるために、生徒が幸せを感じる時を事前にアンケート調査しておき、結果を発表する。
 - 〔展開前段〕 4枚の写真や「そのこ」の詩から、世界の子どもの置かれる厳しい現状や、自分の幸せと「そのこ」の幸せの違いを感じさせる。
 - 〔展開後段〕 補助発問で生徒の考えを揺さぶり、同じ人間として「そのこ」の幸せの実現のために、自分にできることは何かを主体的に考えさせる。
 - 〔終末〕 動画「世界がもし100人の村だったら」を視聴し、生徒の国際貢献への意識を高める。
- 互いの顔が見えるようにして議論を活発にするために、半円状の座席配置にする。また、挙手のルールやペアトークのルールなどを取り入れ、双方向のやり取りになるようにする。

【評価の工夫】

- 授業の終末に、生徒に4つの評価項目について自己評価を行わせる。その結果を集計し授業記録に残すことで、授業改善を行う。
- 授業の終末に、生徒に授業で考えたことや感想をモラルの実に記入させ、モラルの実は各自のモラルの木に貼り付け教室に掲示する。それをもとに、生徒の個人評価や授業改善を行う。

【関連部会の取り組み】

- 各授業で1名の生徒のモラルの実を選び学年のモラルの木に掲示し、学級内だけでなく、学校全体で学習内容やそれぞれの考えの共有を図る。
- 生き方を考える集会（国際理解、国際貢献の関連内容）との関連を図る。
- 2月の家庭道徳で、国際理解の内容項目「女医宇良田唯子」（熊本の心）を実施する。

4 本時の学習

(1) ねらい

写真で「その子の世界」と「私の世界」の違いを比べたり、詩で谷川さんの思いを考えたりする活動を通して、国際社会の問題解決について自分事として捉え、国際貢献しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (○発問◎中心発問◇予想される生徒の発言)	指導上の留意点 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 事前アンケートの結果を発表する。 ○自分が幸せだなと感じる時はどんな時ですか？ ◇ゲームをしている時 ◇家族といる時 ◇本を読んでいる時 ◇食べている時 ◇ほしいものを買えた時 ◇寝ている時</p> <p>(2) 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】 同じ人間として、「そのこ」の幸せのために、自分に何ができるか</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にアンケートをとっておき、生徒の考えを提示する。自分の幸せが、世界の子どもの現状や、その子が願う幸せと、大きく異なっていることを後の展開部分で感じられるようにしたい。 ・生き方を考える集会での佐藤先生の話を想起させ、本時の学習課題につなげる。
展開	23分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考えを深める。</p> <p>(1) 写真を見て感じたことを発表する。 ○4枚の写真を見て、どんなことを感じましたか？ ◇武器を持ったりゴミ捨て場で生活したりするなんて自分には考えられない。 ◇自分たちと同じ子どもなのに、かわいそう。 ◇同じ子どもでも日本とは違うんだ。 ◇自分は(日本人は)恵まれているんだな。</p> <p>(2) 詩「そのこ」を読み、考えを深める。 ◎「だれかぼくに教えてほしい」という谷川さんの言葉には、どんな思いが込められているだろう？ ◇この現状をどうにかしたい。 ◇解決策を探すが、難しい。 ◇何もできない、はがゆさ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを深め、議論を促すために、以下のような補助発問を準備しておき、必要に応じて発問するようにする。 【考えを深め、議論を促す補助発問例】 ● 「そのこ」は、どんな幸せを願っているだろう？ ● 自分たちの幸せと比べて、どんなことを感じるか？ ・デジタル教科書の朗読機能を活用する。(T2が操作する) ・共感的な発問をして考えを出させる。注目させたい点について出ない場合は教師側から投げかける。 ・解決したいが難しい問題であることを生徒の発表の中から捉えさせたい。
	15分	<p>3 自己を見つめ生き方について考えを深める。</p> <p>(1) 学習課題について、自分の考えを個人ボードに書き発表する。 ○ 同じ人間として、「そのこ」の幸せのために、あなたは何をしたいと思いますか？ ◇自分の小遣いから募金をしたい。 ◇服や鉛筆を送りたい。 ◇もっと外国のことに興味を持ちたい。</p> <p>(2) モラルの実に、今日の授業の感想や振りかえりを記入し、互いの考えたことを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【考えを深め、議論を促す補助発問例】 ● 募金をすれば「そのこ」は本当に幸せになるのか？ ● その答えで、「ぼく」は納得するだろうか？ ● 逆の立場なら、どんなことが嬉しいと感じるだろうか？ ・考えを共有し合うことで、他者の意見を聞いた後の自分自身の変容に気付かせたい。
終末	7分	<p>4 本時の授業を振り返る。</p> <p>動画「世界がもし100人の村だったら」を視聴し、考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画が発表されてから10年近くが過ぎ、人口や経済情勢などは変わってきたが、社会の縮図は変わっていない現状を伝え、国際貢献への気持ちを高めて授業を終えるようにする。

【評価の視点1】 世界の人々が置かれている生活の現状や課題に目を向け、日本人と現地の人という立場から多面的・多角的に考えている。(方法：発言・ワークシート, モラルの実)

【評価の視点2】 国際貢献することを、自分に関係のあることとして捉え、これからの自己の生き方について考えている。(方法：発言・ワークシート, モラルの実)